

平成 28 年度 山形県行政支出点検・行政改革推進委員会 第 1 回 会 議 会 議 概 要

◇ 日 時 平成 28 年 7 月 14 日 (木) 10 : 00 ~ 12 : 05

◇ 会 場 県庁 502 会議室

◇ 出席委員

委員長 高橋和

委 員 井上肇、岡田新一、尾形律子、佐藤亜希子、玉谷貴子、
三浦新一郎、三木潤一

〈五十音順、敬称略〉

■委員の主な意見等

議事 (2) 山形県財政の状況について

〈発言順〉

(三木潤一委員)

- 県債残高が年々減少している理由について、補足説明をお願いします。

(三浦新一郎委員)

- 県債残高について、臨時財政対策債まで含めて見ると、県債の総額はむしろ増加傾向にある。今後の財政見通し等を踏まえても、メリハリをきかせ、県内 GDP を上げたり、税収増につながるものに重点配分すべきではないか。

ま と め

(高橋和委員長)

- メリハリをつけた戦略的な投資を行い、財政運営に当たって欲しい。

議事 (3) 新たな「行財政改革推進プラン」の策定に向けた基本認識について

(玉谷貴子委員)

- ふるさと納税は、歳入の確保だけではなく、地域産業を盛り上げるといった観点でも取り組んで欲しい。
- 2020 年の東京五輪を控え、海外から山形に観光客を迎え入れるには、山形ならではの魅力を打ち出し、付加価値を高める情報発信が重要。

(佐藤亜希子委員)

- 行財政改革の取組みに県民の理解と納得を得るためには、効果的な情報発信が必要。SNS を通じて若い人たちにも県の取組みを発信して欲しい。
- 厳しい財源の中で県の行政を運営していくには、民の力を引き出し、活用することが大事。NPO との連携や指定管理者制度の活用など、より民の力を引き出すような取組みを進めて欲しい。
- 県職員数が減少傾向にあるが、採用者数を減らしているのか。「改革 = 削減」と捉えがちだが、職員が健全に働ける環境づくりが非常に重要。労働環境の整備も積極的に進めて欲しい。

(岡田新一委員)

- 職員の削減により、時間外勤務が増えたり、職員の健康問題などに影響を来さないよう注意すべき。

- 18歳と22歳、高卒と大卒が転出超過になっている。若者の定住促進に向けた取組みを重点課題として進めるべき。
- 行革も大事だが、やりすぎると場合によっては地域経済の疲弊につながる。これまでの量的な取組みを踏まえつつ、質の高い県民サービスをどう提供するかに留意しながら、行革に取り組む必要があるのではないか。

(尾形律子委員)

- 女性の活躍が増えるのは大変望ましい。一方、「女性の活躍推進」という言葉だけが先走っているのではないかと心配している。
- 職員数について、よくここまで削減したなというのが正直な感想。人員削減で一人ひとりの負担が増えることにより、職員の健康状態の悪化や県民へのサービスの質が落ちるのではないかと懸念している。

(三浦新一郎委員)

- 山形県民は奥ゆかしさはあるが、PRは苦手。伸び代が大きいインバウンド需要を見据え、行政が旗を振って海外向けPRに積極的に対応することが必要だ。
- 中長期的な意味で県内雇用や所得に反映させるため、県内企業の研究開発を後押しする予算措置を重点的に行っていくべき。
- 地元の山形で学び、地元で就職する機会を若者に与えられるよう、山形銀行で専門学校誘致に携わった。そのような(18歳流出防止の)施策を是非。

(三木潤一委員)

- 「公共部門同士の連携」(Public Public Partnership)というのがこれから非常に重要になってくると思う。
- 公会計改革という流れの中で、県では情報の利用者がどういう意思決定をするための材料として、公会計の情報を整理しようと考えているのか。

(井上肇委員)

- 山形県をどういう県にしたいのか、どういう経済発展をもたらしたいのか、人づくりはどうあるべきかといったことをきちんと想定しながら行財政改革を進めるべき。
- NPO等との連携が強く出されているが、行政から自立して社会貢献事業をしているNPOをモデルにしながら連携を推進していくということが極めて大事だと思う。
- 国際化が進む中で、語学がきちんとできる人を育てていかなければいけない。国際人としての人づくりということも、ぜひ考えて欲しい。

ま と め

(高橋和委員長)

- 総合支庁の地域における支援については、最上や置賜でとても良い結果が出ている。質への転換がうまく図られている事例ではないかと思う。
- 各委員から出された意見を踏まえれば、(次の4年間は)県内外に向かって情報発信を強化し、色々なステークホルダーが総力を結集して頑張っていこうということだろう。また、職員数の削減については、数ありきではなく、働く環境や行政サービスの質の向上など、将来を見越して取り組んでいただきたいと思う。
- 今後、こうした意見を参考にして、次の改革プランを策定して欲しい。

以上